

保育カウンセラー養成講座



公益社団法人 全国私立保育園連盟
保育カウンセラー企画委員会

I.子どもを取り巻く環境

○家庭の育児力の低下

- ⇒ 核家族：祖父母支援が無い
- ⇒ 父親不在：労働の長時間化、離婚
- ⇒ 育児経験の不足：子どもの頃に未経験

○地域子育て支援力の低下

- ⇒ 近所付き合いの減少
- ⇒ 子育て世帯の理解が得られない

○育児不安による子育て環境の社会問題化

- ・ TV、雑誌情報などによる理想の育児
- ・ 家庭の貧困
- ・ 発達障害
- ・ 保護者の精神疾患

一人育児

失敗できない！

児童虐待

保護者支援



Ⅱ.保育者の資質向上、スキルアップ

○国の子育て支援事業などの開始

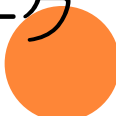
○保育園は、支援対象者と毎日顔を合わす得意な施設

- 支援者の様子が分かりやすい
- 家庭状況の情報を持っている
- 信頼関係を構築しやすい
- 子どもの保育のプロ

○これまでの研修

- 子育て支援、保育（養護、教育）のスキル、知識アップ
 - ⇒ 十分な時間が取れない（エッセンスのみ）
 - ⇒ 実践にいかしきれていない

○これまでの研修の不足している部分の対策が必要

- ⇒ 理論と技法を体験的に学び、保育実践できるようにする
 - ⇒ ソーシャルワーカー的なかかわり：保育ソーシャルワーク
 - ⇒ 保育者の「自己成長」支援をする
- 

Ⅲ.保育カウンセラー養成講座

○平成5年度

平成2年度にスタートした全私保連の「子どもと家庭にやさしい環境づくり運動」に呼応して、「育児カウンセラー養成講座」として開始

⇒ 育児不安が表面化し、保護者の育児相談事業が必要となり、スキルをアップすることが求められていた

○平成12年度

「育児カウンセラー養成講座」から「保育カウンセラー養成講座」に名称変更

⇒ 育児相談だけでなく、保育全般にかかわる課題についてスキルをアップすることが求められてきたため

※講座内容：家族関係論、性、発達障害、脳と発達の関係



Ⅲ.保育カウンセラー養成講座

○平成16年度

「保育カウンセラー」を商標登録（登録商標4833722）

⇒ 研修産業が盛んになり、企業による商標登録が多種実施されたため、研修事業を安定的に行うために取得

⇒ **倫理綱領の策定**

○平成22年度

保育カウンセラー資格認定制度スタート

※平成28年度現在 435名認定

⇒ 講座内容を体系化し、スキルレベルの段階化、より実践的な内容に変更

⇒ スキルレベルの担保、および向上にむけて学びの継続

⇒ **資格認定委員会の設置**

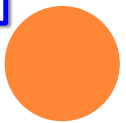


IV.保育カウンセリングとは？

保育者がおこなうカウンセリング

保育者だからこそできるカウンセリング

- ⇒ 保育者が日常的に継続的に、保育や保護者の援助活動する上で、カウンセリングの理論や技法を活かすことにより、**安心できる**保育環境や人間関係を築くことを目的としている
- ⇒ 子どもや保護者、保育者自身、保育者同士の「**自己成長**」を援助する
- ⇒ 保育カウンセリングを理解すると「**人が人と間で育つ**」ことの理解を深める



V.保育カウンセラーとは？

保育を専門とし、保育カウンセリングの理論と技法を習得し、カウンセリングマインドを有したパラカウンセラー・ピアカウンセラー

- ⇒ 主たる仕事は保育であることを踏まえ、より豊かな資質に富んだ保育者
- ⇒ 資格は（公社）全国私立保育園連盟が認定するもの



VI.保育カウンセラー養成講座

1. 受講資格は、保育園、または社会福祉、教育系現場での職員経験年数が**3年以上**
2. 受講生が研修の中だけではなく、講義後も**3~4人の相部屋**で過ごし、交流を持つことで、より自己理解と他者理解を深める
3. 講座は、4泊5日間と、日ごろの多忙な仕事や生活から離れ、**非日常を味わう**ことで、より一層研修に集中できる



4. 講座のねらい

- 保育者としての**感性**を磨く
- カウンセリングの基礎的理論と技法を習得し、日常の保育における「子ども」「保護者」「保育者どうし」の**関わる力**を育てる
- 子どもや保護者を取り巻く社会状況を理解し、一人ひとりに**寄り添った対応**ができるようにする
- カウンセリングマインド**を身につけた保育の専門家として、子育て家庭の**良き援助者**になる力を身につける
- 保育者自身が自己探求をし、一人の人間としての**自己変革**をめざす



5. 講座の基本的理論

カウンセリングの3つのアプローチ

○過去から解放されるアプローチ（力動心理学）

- ・フロイトの精神分析に代表される理論
- ・内面の病的な部分を見ていく理論
- ・悩みの根源を過去に溯って探し解決する

○練習するアプローチ（行動主義心理学）

- ・ワトソンの行動療法を代表する理論
- ・練習することにより目的とする行動や認知を習得する理論

○気づきと学びのアプローチ（人間性心理学）

- ・マズローやロジャーズを代表する人間性心理学
- ・自己をとおして問題と向き合うアプローチ
- ・自分らしく生きるためのアプローチ
- ・自己成長するためのプロセスを大切にしたアプローチ

5. 講座の基本的理論

○パーソンセンタードアプローチ、来談者中心療法

- グループダイナミクス、リフレーミング、私メッセージ、ストローク理論、フォーカシング、交流分析、エンカウンター、アサーション、ファシリテーション、発達心理学、自己生成志向カウンセリング
- コミュニケーショントレーニング、傾聴トレーニング、保育カウンセリングトレーニング
- 保育ソーシャルワーク、脳科学、家族関係論、地域ケア、メンタルヘルス



6. 講座の様子

- 理論を学ぶ



6. 講座の様子

- 技法を学ぶ



6. 講座の様子

- 技法トレーニング



6. 講座の様子

- 体験学習



7. 講師（H29年度予定）

- 井出智博－静岡大学准教授
- 遠藤利彦－東京大学教授・発達保育実践政策学センター副センター長
- 大竹直子－千葉大学（カウンセラー）、法政大学・大学院兼任講師、臨床心理士
- 大野祥子－白百合女子大学非常勤講師
- 小山田治子－CHR研究所所長
- 齊藤 崇－足利短期大学非常勤講師、国際医療福祉大学非常勤講師
- 清水幹夫－多摩心理臨床研究所所長、法政大学名誉教授
- 長谷川啓三－日本家族カウンセリング協会副理事長、東北大学名誉教授
- 長谷川俊雄－白梅学園大学教授
- 諸富祥彦－明治大学教授



VII. 講座のねらい

※開催回数と延べ参加者数（平成28年度現在）

1. ステップⅠ（学びの一步をスタート!）※計64回開催 4,463人

- 人とのつながりを育てるための理論と方法を学ぶ
- 子どもや保護者の気持ちを受けとめ、寄り添うための力を身につける

2. ステップⅡ（自他を理解する/自他を受容する）※計41回開催 2,168人

- 自分も相手も大切にできる態度を身につける
- 自分を知り、自分らしさをよりよくいかす力を養う

3. ステップⅢ（援助者としてのスタートに備える）※計22回開催 1,368人

- 保育現場での様々な出来事や問題に対応する考え方と方法を身につける
- 安心した関係を築き、自分や他者の内面に触れる力を養う



4. ステップアップ（より広く、より深く学ぶ） ※計22回開催 785人

- 現場でいかせる理論と技法への理解と習得を深める
- 保育カウンセラーとして、よりよい援助をする力と視座を養う

5. 管理者のための公開講座 ※計10回開催 319人

- 保育カウンセリングをいかした活動と実践を理解する
- 管理者の視点で保育カウンセリングの役割を知る
- 管理者どうしの情報交換と交流

6. その他：学びの継続、普及

- ミニ講座、特別講座、事例検討会
- 全国私立保育園研究大会分科会
- 保育総合研修会分科会



Ⅷ.保育カウンセラー養成講座の有効性 (施設長およびステップⅢ修了者アンケートから)

1. アンケートの主旨

このアンケートは、「受講者」「施設」への受講後の検証として、本講座の効果、継続意義を明確にするともに、さらなる講座の充実を図ることを主旨として実施した。

2. アンケートの対象者

- ステップⅢ修了者が所属する施設の施設長

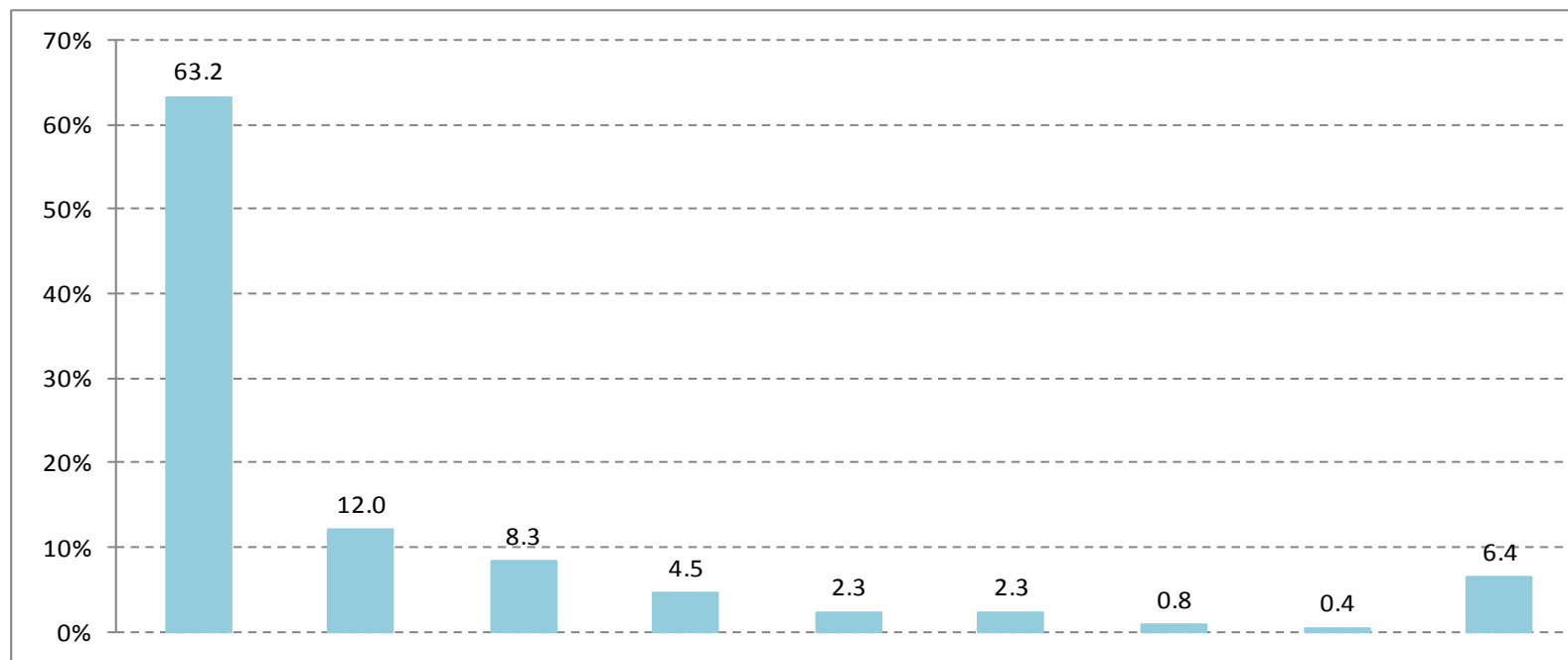
発送数 527件 回収数 266件 回収率 50%

- ステップⅢ修了者

発送数 1,263件 回収数 492件 回収率 39%

3. 施設長の回答

(1) ステップⅢ修了者は退職者を含めて何名ですか

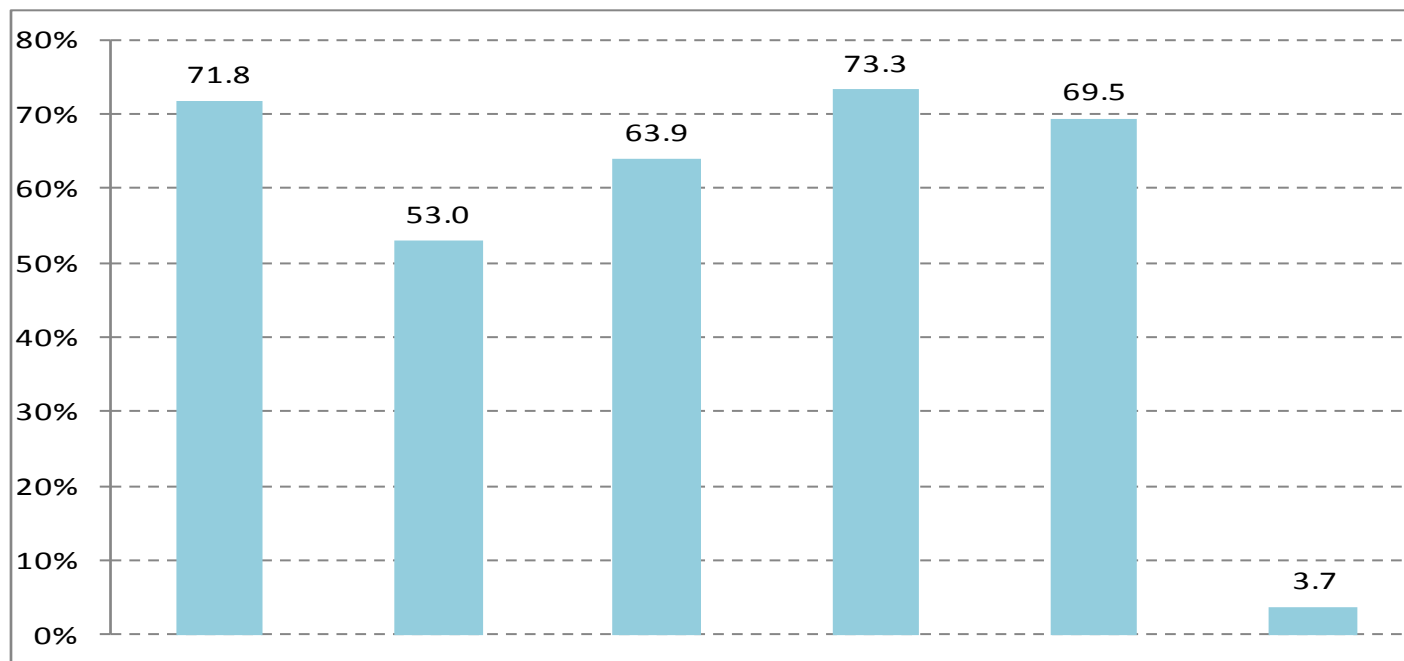


全体数	1名～2名	3名～4名	5名～6名	7名～8名	9名～10名	11名～12名	13名～14名	15名以上	不明・無記入
266	168	32	22	12	6	6	2	1	17
	63.2	12.0	8.3	4.5	2.3	2.3	0.8	0.4	6.4

上段: 件数 下段: 構成比

3. 施設長の回答

(2) 職員を受講させるのは、どのような理由からですか。(複数回答可)



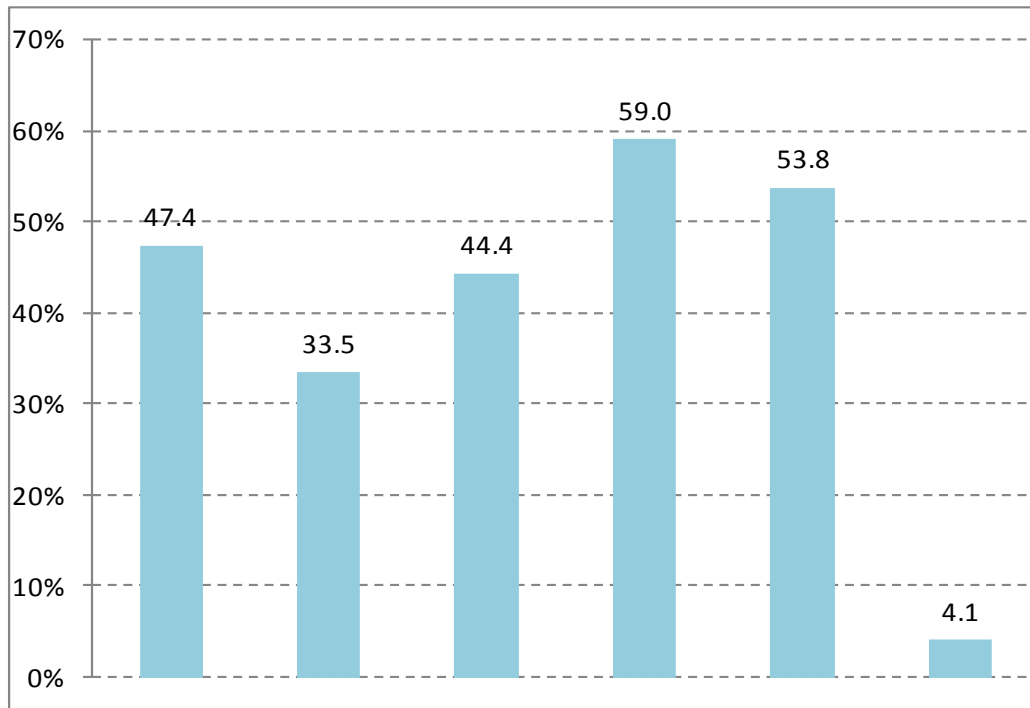
全体数	保育の質の向上	子育て支援の充実	職場の人間関係の充実	保護者対応の充実	職員個人の向上	その他
266	191	141	170	195	185	10
	71.8	53.0	63.9	73.3	69.5	3.7

上段: 件数 下段: 構成比



3. 施設長の回答

(3) 受講後、職員に変化が見られましたか。 ※①見られた内容について



①見られた
240件 90%

②見られなかった
3件 1%

③どちらとも言えない
23件 9%

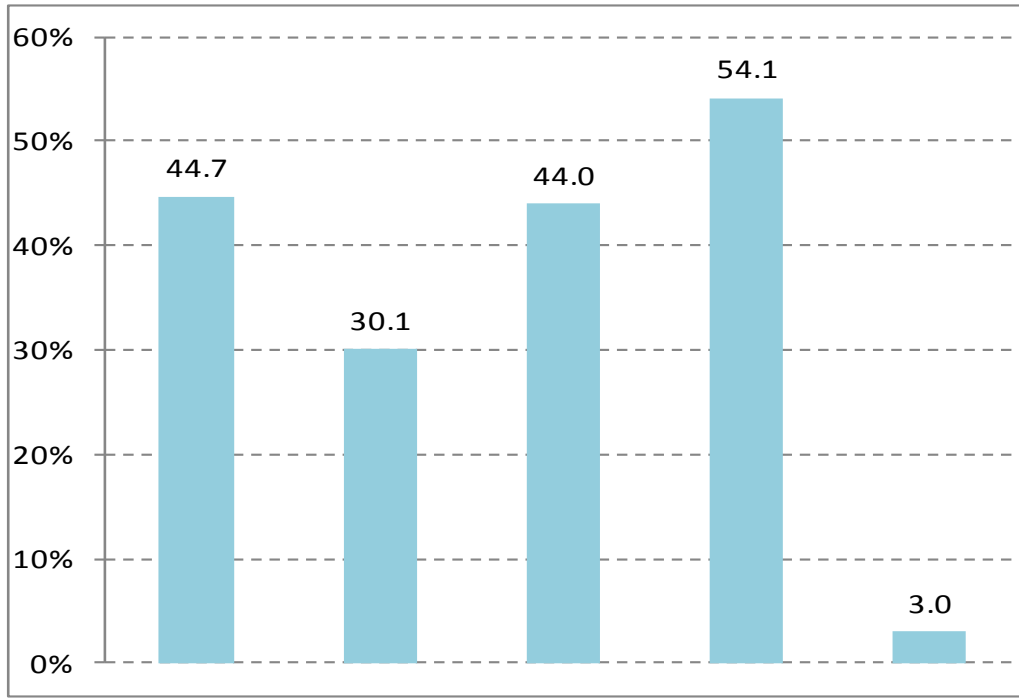
保育の質の向上	子育て支援の充実	職場の人間関係	保護者対応の充実	職員個人の向上	その他
126	89	118	157	143	11
47.4	33.5	44.4	59.0	53.8	4.1

上段: 件数 下段: 構成比



3. 施設長の回答

(4) 受講後、施設に変化は見られましたか。 ※①見られた内容について



①見られた
218件 82%

②見られなかった
6件 2%

③どちらとも言えない
42件 16%

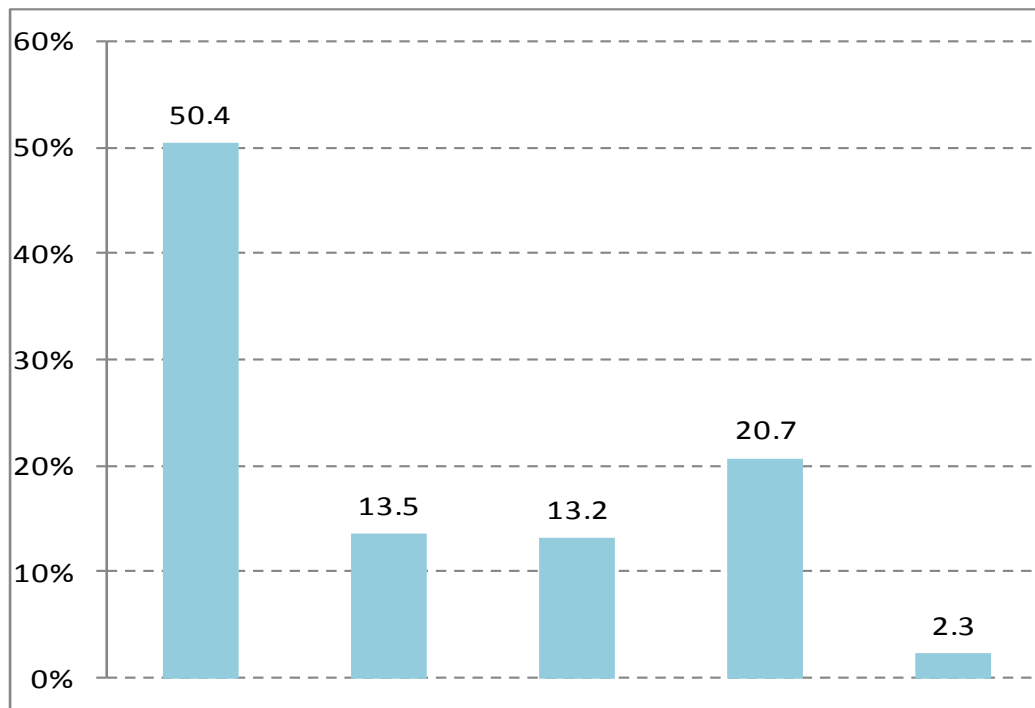
保育の質の向上	子育て支援の実	職場の人間関係の充実	保護者対応の実	その他
119	80	117	144	8
44.7	30.1	44.0	54.1	3.0

上段:件数 下段:構成比



3. 施設長の回答

(5) 今後、施設長ご自身が講座を受講しようとお考えですか。



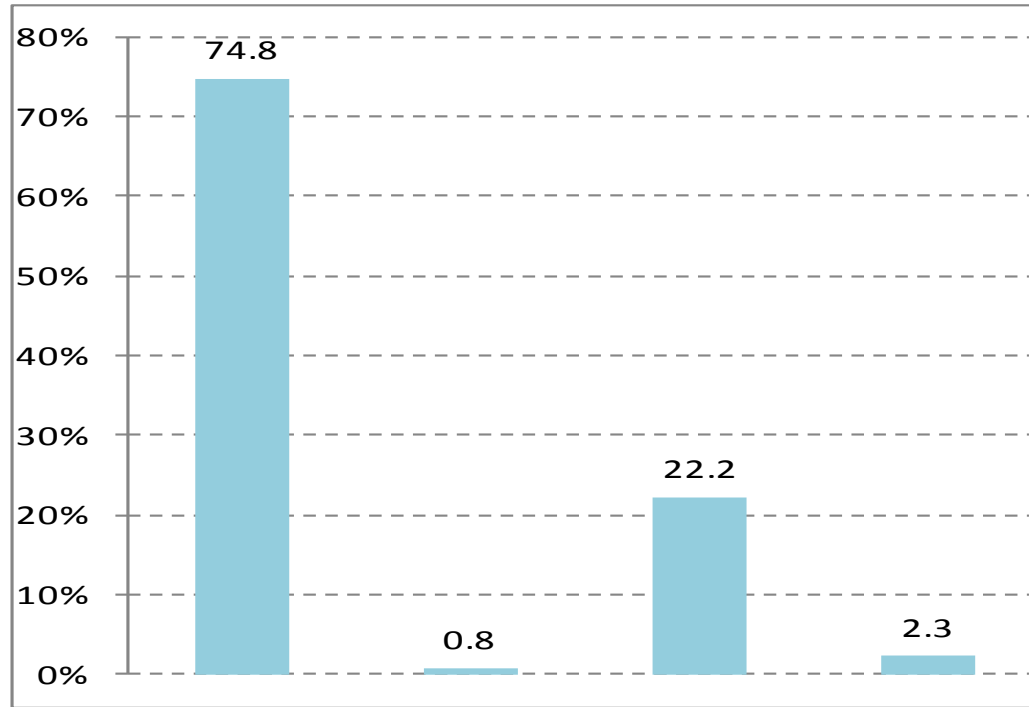
全体数	受講済	受講しようと思わない	受講しようと思う	どちらともいえない	無記入
266	134	36	35	55	6
	50.4	13.5	13.2	20.7	2.3

上段: 件数 下段: 構成比



3. 施設長の回答

(6) 引き続き講座に職員を送り出したいとお考えですか。



(7) 「送り出したい」と回答されたのは、どんな理由からですか。

◆財政的、職員体制、日程による参加の難しさが挙げられていた。

全体数	送り出したい	送り出したくない	どちらともいえ	無記入
266	199	2	59	6
	74.8	0.8	22.2	2.3

上段：件数 下段：構成比



(8) 講座への要望をお書きください。

①講座内容について

- 時代のニーズに合った内容、実践に生かせる内容に満足している
- より実践で活かせるような内容、メンタルヘルスの学習、虐待問題、うつ病等の精神疾患に対するハイレベルな対応を実感する


②講座開催期間・時期について

- 従来通りの月曜日から金曜日の5日間が良い
- 深い学びのためには4泊5日は必要という意見が多くある一方、長期間であると参加が難しい

③講座受講料について (S I ~ III : 80,000円)

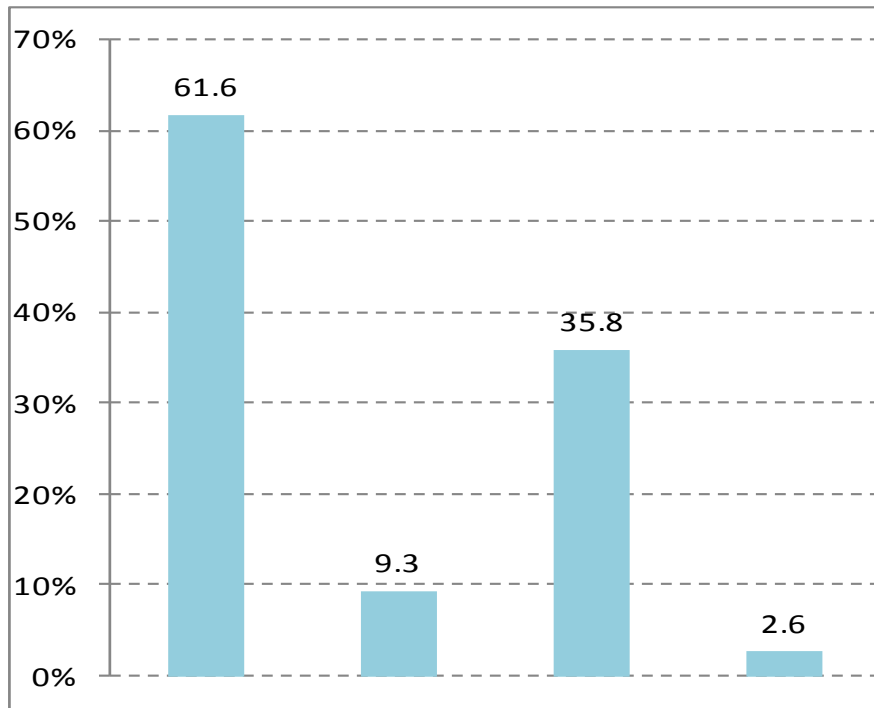
- ホテルに4泊5日と考えると適当な金額である
- 高額だが内容的に納得できるという意見がある一方、負担が大きい
- 遠方からの参加には受講料に加え、高額な旅費が負担となる

④その他

- 講座の内容に満足し、今後も講座の継続を希望するとの意見を多数
 - 今までの開催地だけでなく、全国各地での講座開催を希望
- 

4. ステップⅢ修了者の回答

(1) 本講座受講のきっかけを教えてください。(複数回答可)



全体数	施設長の勧め	先輩・同僚の勧め	自分の希望	その他
492	303	46	176	13
	61.6	9.3	35.8	2.6

上段: 件数 下段: 構成比

○現在の役職あるいは職種

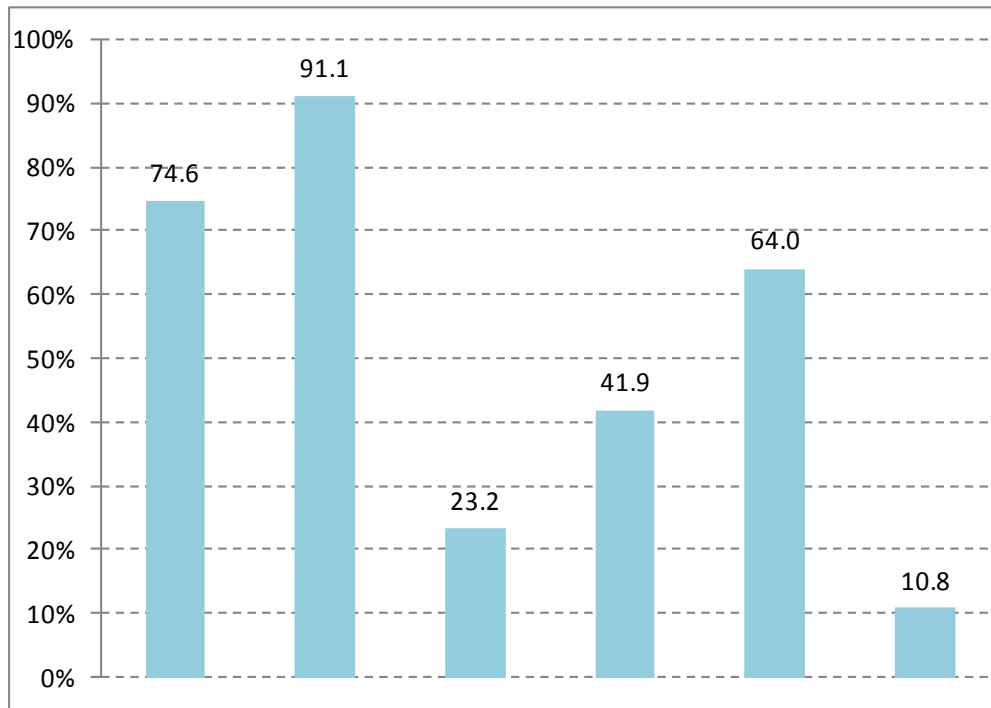
★施設長、副園長、主任保育、副主任保育士、保育リーダー、保育士が主ではあるが、その他、看護師、事務員、看護師、栄養士、調理員のような、施設を支える役職の方の参加もある

★法人によっては保育所のみならず、指導員、電話相談員などの法人全体に変化を与えようとする姿が窺えた



4. ステップⅢ修了者の回答

(2) 講座の学びは、活かすことができましたか。 ※①活かすことができました



①活かすことができました
478件 97%

②活かすことができなかった
2件 1%

③よくわからない
12件 2%

子どもへの対応	保護者への対応	地域への対応	子育て支援	職場の人間関係	その他
367	448	114	206	315	53
74.6	91.1	23.2	41.9	64.0	10.8

上段: 件数 下段: 構成比



4. ステップⅢ修了者の回答

「①活かすことができた」 具体的状況を教えてください。

- 「傾聴」「受容」「共感」を学び、相手の気持ちに寄り添うカウンセリング・マインドを活かすことができた。
- 他者（子ども・保護者・職員）の話を聴くという「傾聴」の基本的な考え方、態度、手法が役に立った。
- アサーション、リフレーミング、私メッセージ、ストローク理論、ファシリテーションなどのカウンセリング理論が実践で活かすことができた。
- 「自己理解」と「他者理解」に役立った。
- 職場以外の場面で家族を含めた人間関係に活かせた。

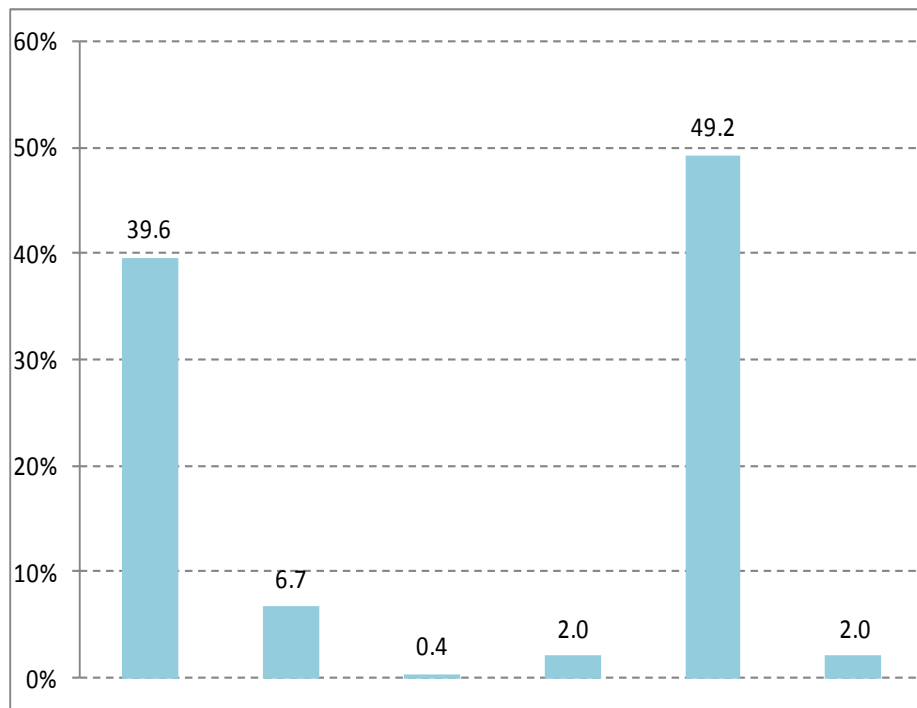
「②活かすことができなかった」理由があれば教えてください。

- 理論が難しすぎる
- 理論だけに留まってしまい、実践に結び付けることができなかった



4. ステップⅢ修了者の回答

(3) ステップアップに参加しましたか。



全体数	1 ～ 2 回	3 ～ 4 回	5 ～ 6 回	7 回 以上	参加 して いな い	無 記 入
492	195	33	2	10	242	10
	39.6	6.7	0.4	2.0	49.2	2.0

上段:件数 下段:構成比

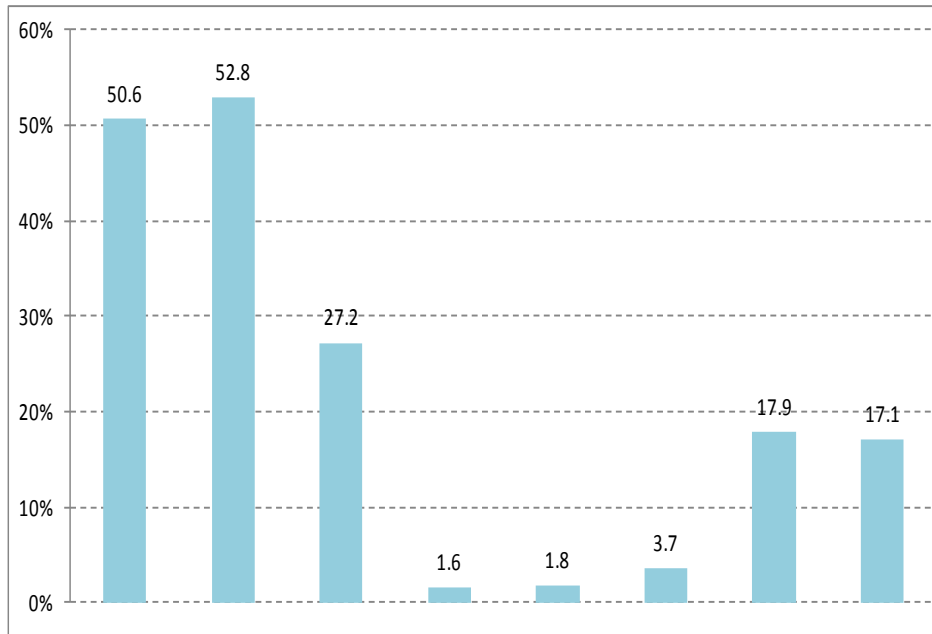
○参加していない主な理由

- 日程が合わない 28件
- 多忙のため 22件
- 機会がないため 13件
- 同僚に機会を分けるため 10件



4. ステップⅢ修了者の回答

(4) これからさらに学び続けたいと思いますか。 ※①思うの内訳（複数回答可）



保育カウンの特別講師のため	ステップアップ講座	ミニ講座	ステップⅠ (旧初級)	ステップⅡ (旧中級)	ステップⅢ (旧上級)	全国大会分科会	保育総合研修会分科会
249	260	134	8	9	18	88	84
50.6	52.8	27.2	1.6	1.8	3.7	17.9	17.1

上段:件数 下段:構成比

①思う

399件 81%

②思わない

33件 7%

③わからない

60件 12%

○思わない主な理由

- 年齢の問題 11件
- 園の事情 7件
- 家庭の事情 6件
- 他の職員に参加させるため 5件

4. ステップⅢ修了者の回答

(5) 保育カウンセラー認定資格を取得されましたか。

①取得した	227件	46%
②取得していない	249件	51%
③無記入	16件	3%

○取得していない主な理由

・仕事が多忙のため	24件
・タイミングを逃したため	15件
・余裕がないため	14件
・必要がないため	9件



(6) 講座への要望をお書きください。

①講座内容について

- 実践に生かせる講義内容で、大変満足している。
- より実践に生かせる内容やトレーニング、メンタルヘルス、子どもを取り巻く社会問題や最新の情報について。

②講座開催期間・時期について

- 開催日発表以前に、すでに年間行事計画が決定しており、日程が合わないことがある。
- 2泊3日等の短期日程であれば参加しやすい。
- 開催地が、交通アクセスの良い場所や近県であれば参加しやすい

③講座受講料について

- 4泊5日の研修としては妥当との意見が多くある一方、高いとの意見も見られた。
- 受講料よりも交通費等が負担となる

④その他

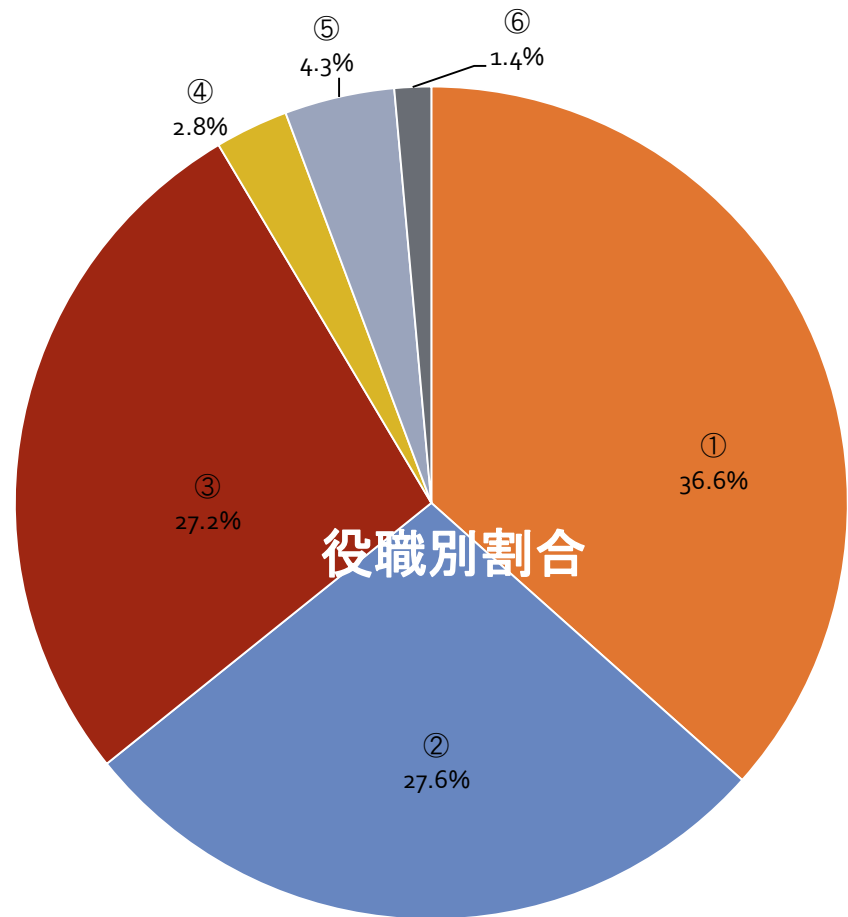
- 保育だけでなく、人との接し方や物事への対応など、多くの面で勉強になった。
- 会員制リゾートホテルを利用しての研修は、普段の生活とは離れた非日常を体験でき、良いリフレッシュの機会となったと意見があった。

(7) アンケート参加者

①施設長、副施設長、理事長、理事、 教頭、事務長	180
②主任保育士、副主任保育士、 基幹的職員、クラスリーダー	136
③保育士、契約保育士、 幼稚園教諭、看護師	134
④栄養士、調理員、事務員	14
⑤その他	21
⑥未記入	7

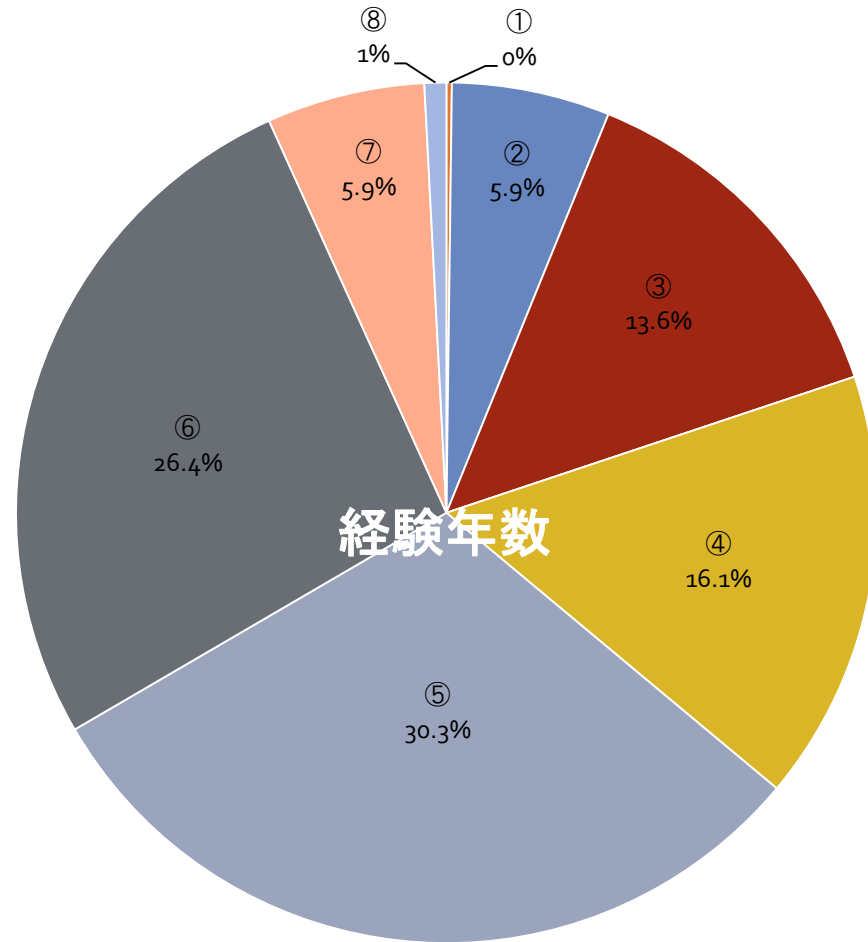
⑤その他

- ・相談員
- ・市役所子ども家庭相談室
- ・教育委員会教育支援相談員
- ・保育・教育アドバイザー
- ・相談支援専門員
- ・地域子育て支援センター長
- ・学童クラブ支援員
- ・児童指導員（基幹的職員）
- ・病児保育専門看護師
- ・保育専門学校講師
- ・企業の心理カウンセラー
- ・介護福祉士
- ・ケアワーカー



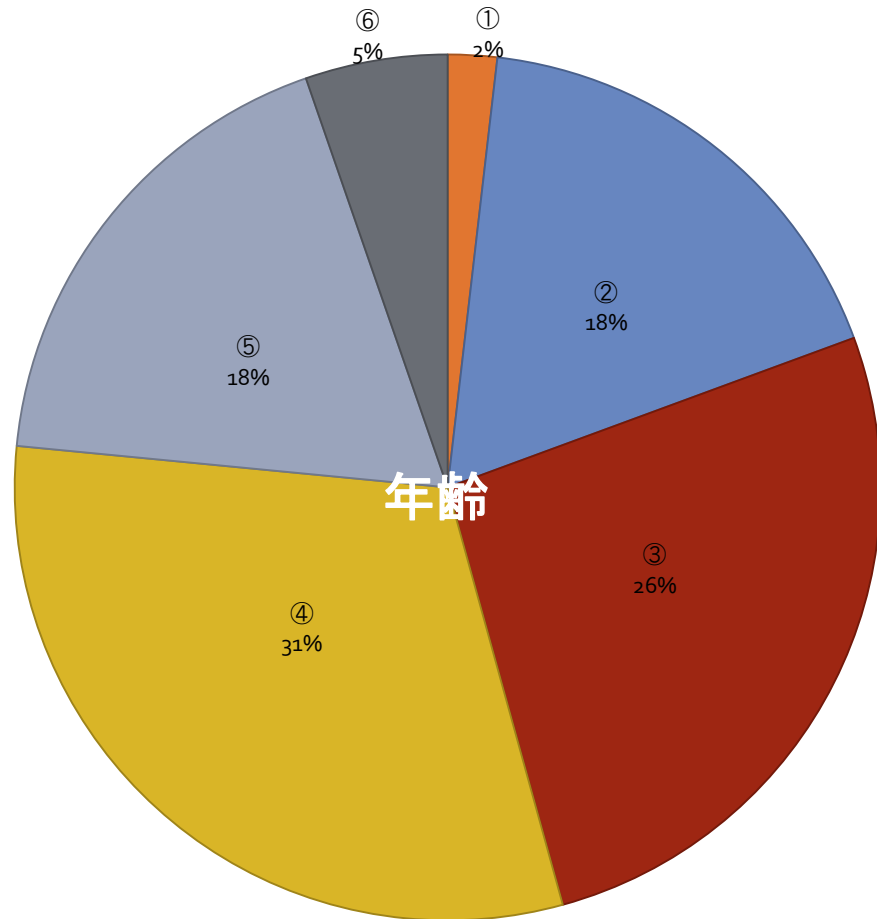
(7) アンケート参加者

①5年未満	1
②6～10年	29
③11～15年	67
④16～20年	79
⑤21～30年	149
⑥31～40年	130
⑦41～50年	29
⑧50年以上	4
・未記入	4



(7) アンケート参加者

①20代	9
②30代	86
③40代	129
④50代	151
⑤60代	89
⑥70代以上	26
・未記入	2



5. 総合的評価と課題

(1) 総合的評価講座内容について

• 施設長回答

Q-受講後、職員に変化が見られましたか。⇒ 見られた 90%

Q-受講後、施設に変化は見られましたか。⇒ 見られた 82%

※かなり高い確率で研修内容が実践に結び付いたことを示している。

Q-引き続き講座に職員を送り出したいとお考えですか。

⇒ 送り出したい 75%

※施設長が研修内容の効果、影響を理解しているため、受講料、研修旅費を費やして、継続して職員を参加させている

※費用の負担感、保育士の研修期間の負担感などの懸念はある



(1) 総合的評価講座内容について

・ステップⅢ修了者回答

Q-講座の学びは、活かすことができましたか。

⇒ **活かすことができました 97%**

※本講座が基礎としている「傾聴」、「受容」、「共感」を意識、実践していることは、講座の目指している目的を十分に果たしていると評価できる。

※ステップⅢまで段階的に学び、継続して受講することで、自身や所属施設内において、大きな効果と影響が見られたと考えられる。

※受講者の年齢は、30代以降が多く、また、園での中心的役割を担っている方が多ことから、この研修がキャリアアップにつながっていることが推察される。



(2) 課題

- 講座開催地、費用は、遠方の参加は多くの面で負担となっている

- ① 隔離された中での環境により、研修内容への集中ができ、非日常を体験することによりリフレッシュができる
- ③ 3～4人が相部屋となり親交を深めるとともに情報交換ができる
- ④ ホテルスタッフの慣れ、研修に必要なだけの会場確保
- ⑤ 実際は4泊1食としては割安、他施設での検討したが価格が合わなかった

- 講座期間を短期間で回数を多くしてはとの意見

⇒ 4泊5日（30H）の研修では講義だけでなく、講義後の相部屋内での講義内容の復習や実践などの深い学びが、日帰り研修では得られない効果があると思われるため、短期間での開催は難しい。

- 保育カウンセラー有資格者より、学び続けるための機会が少ない

⇒ 保育カウンセラーは、自己を研鑽するための継続した深い学びが必要である。現在、愛知県において有資格者のための事例検討会を開催している。今後、開催地域の拡大を図ることを計画している。

※H29年度広島開催予定

(3) 今後の展望

- 保育カウンセリングの学びの動機づけとして、保育カウンセラーの資格を行った。アンケート結果からも、保育の質の向上は明らかである。しかしながら、**地位の向上、報酬への向上が不十分**であるため、園負担、個人負担が必要であり、学びを止めてしまうことがある。今後何らかの支援、地位向上を行える仕組みの構築が必要となる。
- 全国私立保育園連盟の加盟園は、現在8,957園となっている。しかし、平成28年度現在のステップⅢ修了者の所属する施設は、552園に留まっている。今後、今回のアンケートが示すような保育カウンセラー養成講座のもたらす効果・影響を加盟園の多くの方々に周知していくことが必要である。また、加盟園のみならず、日本の保育関係者すべての方に広めていき、保育者のキャリアアップにつなげたい。
- 今回のアンケート結果を踏まえ、更なる講座の発展と進歩のために、より一層の内容充実を目指していきます。



全私保連ホームページ

公益社団法人 全国私立保育園連盟

あおむし通信

<http://www.zenshihoren.or.jp/>

研修予定一覧に、保育カウンセラー養成講座の
申込み状況等を掲載しております。
是非ご覧くださいませ。

